東北森林管理局

指導普及課だより

第　５６　号
発 行 日　平成２１年１０月２６日
郵便番号　０１０―８５５０
電話番号　０１８―８３６―２２１８
住　　所　秋田市中通５丁目９―１６

コミュニケーションを大切に

旧秋田営林局指導普及課勤務時以来、１３年ぶりに普及業務を担当することになり、早２ヶ月が経過しました。

今、率直に感じていることは、指導普及課の仕事も随分様変わりしたということです。以前から取り組んでいたイベント等普及啓発と技術開発に加え、ふれあいセンターと連携した自然再生及び森林生態系保護地域・緑の回廊といった保護林等管理についての取組も業務の大きな柱となっているからです。

しかしながら、指導普及課の業務の基本が「関係者とのコミュニケーション」にあることは変わっていないと思います。

指導普及課長　高橋　東

森林浴等のイベントにおいては一般市民の方々、技術開発においては有識者の方々、自然再生や保護林等管理の取組みにおいては地域やＮＰＯの方々から直接意見を聴いて、多様なニーズや意見に応える形で業務を進めていくことが重要と考えるからです。

今後とも、コミュニケーションを意識しながら、前向きに業務に取り組んでいきたいと考えておりますので、署や各センター及び関係者の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

平成２１年度森林ふれあい推進事業（緑の山歩塾）を終えて

当課では、今年度、森林ふれあい推進事業（緑の山歩塾）を４回企画しましたが、無事予定通り終了することが出来ました。ここでは、各イベントの実施状況について振り返ってみたいと思います。

１回目のイベント「太平山山頂付近から眺める仁別森林博物館」は６月１３日（土）に開催しました。

当日は秋田駅東口を７時１０分に出発。今にも雨が降り出しそうな空模様でしたが、参加者は元気いっぱい。

参加者は１４名と少し寂しい出だしでしたが、そこは、当課の職員が雰囲気を盛り上げ、和気あいあいの中、太平山山頂を目指しました。幸い心配した雨にも降られず、参加者全員が山頂へ到達し、帰りには仁別森林博物館を見学するなど、参加者には満足頂けた一日になったと思います。

太平山山頂にて

２回目のイベント「田代岳と高層湿原の高山植物を訪ねて」は７月１１日（土）に開催しました。

田代岳登山には４０名の募集に対し１６７名の申し込みがあり、緑の山歩塾始まって以来の競争率となりました。この日は、あいにく梅雨の真っ只中でしたが、田代岳登山口に着くころには雨も上がり３５名の参加者の色とりどりのウエアーが雨に濡れた緑の木々に一段と映え、足取りも軽やかにスタート。ブナ林とネマガリダケの密生する道を進み、やがて池塘が点在する九合目の湿原に到着。参加者からはその美しさに感嘆の声が上がりました。

田代岳九合目の湿原にて

また、ミツガシワが参加者の出迎え、体の疲れを癒し、山頂へと後押ししてくれ、今回も参加者全員が田代神社のある頂上へ到達できました。

３回目のイベント「天然秋田スギを巡る」は８月２１日（金）に開催しました。

前回２回のイベントとは趣を変え、天然秋田スギ林での森林浴に加え、天然秋田スギ材の美しさ等を実感していただくイベントとして企画したものです。

今回の参加者は２９名、最初は能代市仁鮒にある仁鮒水沢スギ植物群落保護林内を散策。ここは昭和２２年に保護林に指定され、平成８年には、保護林内で一番樹高が高いスギに「きみまち杉」と命名され、樹高日本一の宣言を行っております。林内には、樹高５０ｍクラスの天然秋田スギが約２，８００本が林立し、樹齢（推定）２００～３００年程度に至った現在でも成長を続けており、大学などの研究のフィールドとしても大いに活用されています。途中には、平成３年の台風１９号による被害木を利用したスギの輪切りのテーブルとイスが置かれている休憩所があり、歩道も整備されて気楽に散策を楽しむことが出来ました。

きみまち杉を背に「ハイ。ポーズ」

次に、上小阿仁村上大内沢自然観察教育林に移動し散策。中でも「コブ杉」は、林内に約７００本もの巨木が郡立する中、ひときわ奇形な形をしており、参加者の目を釘付けにしていました。「コブ杉」

コブ杉の説明を聞く参加者

は、平成１２年４月に林野庁選定「森の巨人たち百選」に指定されております。

午後は、能代市にある秋田県銘木センターを見学、午前中に入札されたばかりのスギ丸太、倉庫いっぱいの床柱、天井板、加工された厚板等々。参加者は、初めて見る市場の光景に興味津々で、センターの職員に質問が相次ぐなど勉強になった様でした。

入札された丸太を見る参加者

最後は、歴史的建造物の旧料亭「金勇」を見学、天然秋田スギをふんだんに使用した建物は、見る人の目を釘付けにするばかりであり、天然秋田スギ材の美しさや、秋田県の伝統文化を伝えるには十分すぎる建造物でした。「金勇」は平成１０年に国の有形文化財に指定され、現在は能代市が管理、一般市民に解放しているとのことでした。

旧料亭「金勇」の大広間

参加者は、「一様にとても良い企画だった。次回もこの様な企画の時は、是非また参加したい。」との声が聞かれました。

４回目のイベント「紅葉の栗駒・秣岳縦走」は１０月１日（木）に開催しました。

秣岳の頂上を見つめる参加者

当日は、今年度最後の「緑の山歩塾」を飾るに相応しい秋晴れとなり、参加者３９名は秋田駅東口を２台のバスに分かれ、栗駒登山口である須川高原温泉駐車場へ。課長の挨拶に始まり準備体操の後４班に分かれ出発。

コバルトブルーの昭和湖、黄色に色づいたブナ、真っ赤に染まったナナカマド等々、空の青さに一段と映え、途中の湿原では心地よい秋風が吹き渡り汗ばんだ身体には最高のプレゼントとなり、予定時間を若干遅れたものの参加者全員が協力し合いながら、約５時間に渡る縦走コースを完走しました。

来年度も、森林ふれあい推進事業の趣旨である「森林の中で自然と親しみ、遊び、学ぶ喜び」を味わっていただけるよう創意工夫して行きたいと思います。

指導普及課関連人事異動　　異動された皆さんからひと言

伊東弘至　（企画係長担当）

８月１日付けで森林整備課造林係長から指導普及課企画係に異動になりました伊東です。

指導普及課は、技術開発、自然再生、各種イベント、保護林、森林教育等多岐に渡り様々な業務を行う課なので、今までの経験を生かしつつ、経験のない業務については局署等及び関係機関の皆様のご指導

・ご協力を賜り、気持ちを新たに業務を遂行して参りたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

高倉利弘　（前 指導普及課長）

先日、林政記者クラブとの顔合わせ会見で趣味を聞かれ、すぐに出てこなかった。ゴルフは大好きなのだが、二年近くプレーしていない。とっさに出たのは、「温泉巡り」だった。本当は、囲碁も将棋もカラオケだって好きだし、７０年代のフォークは今でも歌っている。ただ聴いてくれる人は少ない。そんなこんなで最近、コブクロの歌を聴いている。

八月、指導普及課を卒業した。三年を超える時間、保護林や自然再生、技術開発等、課員はじめ両森林環境保全ふれあいセンター、藤里森林センターと森林技術センターの皆さんに支えられ、ゆっくりでも着実に何とか歩くことができた。特に、EXILEというアーティストについて何故か詳しい上司には、この上ないご指導をいただいた。深く感謝申し上げる。

常に、国民目線に立ち、最も市民の皆様に近い位置で、「緑の山歩塾（さんぽじゅく）」等の森林（もり）とのふれあいを企画・実施してきた。参加いただいた皆さんや応募者多数で抽選漏れを何度か経験しても関心を示していただいた市民の皆さんに感謝している。

手前みそだが結構行き届いたサービスができたと思っている。

その表れが参加者からいただくメッセージだ。「スタッフが充実し、とても安心感があり、嫁からここなら参加しても良いと言われた。（７８歳・埼玉県在住女性）」とか、「説明が分かりやすく国有林の姿が見えて、とても良い勉強になった。（秋田市在住女性）」等である。やりがいを感じる瞬間だ。

今後は、月下老人が操る「赤い糸」を足下に感じながら、楽しくて、とてもやりがいのある課を離れ、「ゴールは見えなくとも信じた道をゆっくりと歩きながら」隣の課に移る。

畠山　達　（前 企画係長）

平成１９年４月１日より指導普及課にお世話なりましたが、木を切り、苗木を植えて、立木を売って、素材を売るといった業務を２６年間歩いてきた私ににとって指導普及課での勤務は、これまで経験したことのない貴重な体験をさせて頂き、とても思い出深い２年４ヶ月でありました。

事業畑を歩いてきた私は、性格、行動、言動等全てにおいて、かなりやっかいな企画係長であったと思いますが、皆さんの寛大な気持ちのおかげで、大過なく、業務が出来た事を感謝したいと思います。（事業畑は口実で、根っからのやっかいな人でしたが・・・。）

P. s ：ただひとつ、津軽ふれあいセンターにお邪魔する事無く＆「わさお」にも会えなかったことが、心残りです。